

共助 3 市民の皆さまとの協働

●地域における応急給水訓練

震災に備えて、日頃から訓練を重ねることが大切です。水道局では、災害時給水所である災害用地下給水タンク、緊急給水栓などで地域の皆さまと応急給水訓練を実施しており、令和4年度は171回、10,154人にご参加いただきました。なお、平成29年度から開設の補助を行う横浜市管工事協同組合も訓練に参加しています。この訓練で、災害時給水所の場所や仮設の蛇口の取り付け方法をご確認いただくなど、災害時の応急給水活動を市民の皆さまの「共助」で行う体制を強化しています。*令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模及び回数を縮小



災害用地下給水タンクにおける応急給水手順 (市民の皆さまの「共助」により仮設の蛇口を設置することで給水することができます)

資機材庫の鍵を開け、資機材を取り出します。



タンクのマンホールを開け(酸欠に注意)、安全柵を設置します。タンク内に圧力がないことを確認します。



ホース、仮設蛇口などの資機材をタンクに接続します。



手動ポンプで給水します。水道水に塩素が含まれているか確認します。

COLUMN コラム

停電時に備え、給水方法を確認しましょう！

中高層の建物では、多くの場合、電力で動くポンプにより各戸へ水を送っているため、停電時には断水してしまう可能性があります。まずは、ご自宅の給水方式を確認しておきましょう。

①直結直圧式給水

水道管の水圧で直接給水する方式で、戸建住宅はこの方式です。また、一部の中高層階の建物でも直結直圧式で給水しています。

②直結増圧式給水

水道管の水圧に加え、増圧ポンプによりさらに水圧を上げることで、中高層の建物へ直接給水する方式です。増圧ポンプには電気を使用するため、高層階では停電時に断水する可能性があります。

③受水槽式給水

水道水をいったん水槽に入れ、この水をポンプで直接給水したり、屋上などに設けた高置水槽に送り、給水する方式です。ポンプには電気を使用するため、停電時に断水する可能性があります。



中高層の建物で停電時にポンプが止まり断水した場合、直結直圧式の共用栓があればその水を使用できます。また、受水槽式では、受水槽に溜まった水を受水槽周辺の蛇口等から使用できる場合もありますので、事前に建物の給水方式や停電時の給水方法などについては、管理会社等へ確認しましょう。

なお、停電によりエレベーターが使えない場合、水の運搬が困難になることが予想されます。停電に備えて、日頃から飲料水を備蓄しましょう。

COLUMN コラム

横浜市水道局災害時支援協力員の活動

横浜市水道局では、水道事業に関する経験と知識を持った水道局退職者をボランティアとして登録し、地震災害発生時の水道施設の被害状況収集や災害用地下給水タンクからの応急給水作業など、発災初期の応急活動を水道局と協働して行う「横浜市水道局災害時支援協力員制度」を平成9年に創設しました。

令和5年度では約150名が登録されており、地域における応急給水訓練等に参加し、災害時の「共助」の取り組みに貢献します。



▲支援協力員、管工事協同組合、水道局での応急給水訓練の様子